

2026年5月(No.sh0487)

耳が目覚める！頭に響く！圧倒的ナナメ上 音楽フェス サントリーホール サマーフェスティバル 2026



ルカ・フランチェスコニ



大野和士 ©Herbie Yamaguchi



石川健人



沼尻竜典 ©Ayane Shindo

1987年より開催し、日本の現代音楽界を牽引するサマーフェスティバル

テーマ作曲家にはルカ・フランチェスコニを招聘、サントリーホール開館40周年を記念するプログラムも

サントリーホールは、2026年8月22日（土）～8月30日（日）の期間に、「サントリーホール サマーフェスティバル 2026」を開催します。1987年にスタートし、音楽の“現在（いま）”を紹介する、東京の現代音楽の祭典として、最前線で活躍する世界の音楽家たちが集い、自由かつ冒険的な精神にあふれる音楽を発信しています。

■テーマ作曲家 ルカ・フランチェスコニ サントリーホール国際作曲委嘱シリーズ No. 48（監修：細川俊夫）

武満徹、クセナキス、ケージなど各時代を代表し、世界の第一線で活躍する作曲家にサントリーホールが管弦楽作品を委嘱してきた当シリーズでは、世界あるいは日本初演の作品を披露します。今回のルカ・フランチェスコニは、大学時代にジャズを専攻後、シュトックハウゼン、ベリオに師事し、前衛音楽の世界に進んだ異才です。緻密に構築された音楽と多様な文化からインスパイアされた独自の世界観をオーケストラ、室内楽、作曲ワークショップを通じて多角的に紹介します。オーケストラ・ポートレートの指揮には、ベルギー王立歌劇場（モネ劇場）音楽監督時代よりフランチェスコニ作品を手がけ、作曲家との信頼関係を深めてきた大野和士。ヴァイオリン協奏曲『ドゥエンデ』を演奏するのは、この作品の初演のために作曲家と緊密に協働してきたリーラ・ジョセフォウィッツ。両者は創作の段階からヴィジョンを共有してきた稀有なパートナーです。作曲家と指揮者、ソリストの三者の結びつきからひとつの音楽が創造される瞬間を、ぜひご体感ください。

■第36回芥川也寸志サントリー作曲賞選考演奏会

「芥川也寸志サントリー作曲賞」は、戦後日本の音楽界の発展に多大な貢献をした作曲家、故 芥川也寸志（1925～89）の功績を記念して、1990年に創設されました。2025年（1月～12月）に国内外で初演された日本人新進作曲家の管弦楽作品からノミネートされた、金田望、中橋祐紀、山本哲也の3作品を実演。その中から、もっとも清新かつ将来性に富む1作品を公開で選考し、贈賞します。第34回の受賞者、石川健人に委嘱した新作の世界初演の演奏もあわせて行います。国内外で世界初演を数多く手がけ、作曲家の視点に立った斬新な解釈や情熱溢れる演奏に定評がある指揮者、阿部加奈子の本公演初登場にも注目です。

■サントリーホール開館40周年記念「時を編む響」

サントリーホールは、40年にわたり「音楽の記憶」を生み出してきました。「時を編む響」では、砂田愛梨（ソプラノ）、小林愛実（ピアノ）、成田達輝／石上真由子（ヴァイオリン）など、世界の最前線で活躍する音楽家が集い、それぞれの解釈と想像力で、サントリーホールに新たな音を紡ぐ、一夜限りのプログラムです。

■アンサンブル・ゴーフォーイット

現在（いま）の音楽が“日常的に楽しめる音楽”となることを目指し、多様な価値と名作への新視点を広く共有する「アンサンブル・ゴーフォーイット」が始動します。

※特集ページはこちらからご覧ください。 <https://www.suntory.co.jp/suntoryhall/feature/summer2026/>

[チケットのお申し込み・お問合せ]

サントリーホール・メンバーズ・クラブ WEB suntoryhall.pia.jp

サントリーホールチケットセンター TEL 0570-55-0017（10:00～18:00、休館日を除く）

サントリーホール サマーフェスティバル 2026
Suntory Hall Summer Festival 2026

◆テーマ作曲家 ルカ・フランチェスコニ

Theme Composer Luca Francesconi

サントリーホール国際作曲委嘱シリーズ No. 48 (監修: 細川俊夫)

Suntory Hall International Program for Music Composition No. 48

(Artistic Director: Toshio Hosokawa)

◎オーケストラ・ポートレート (委嘱新作初演演奏会)

Orchestra Portrait (Commissioned Work Program)

【日時】 2026年8月29日(土) 18:00 開演 (17:20 開場)

Saturday, August 29, 2026 at 18:00 (Doors open 17:20)

【会場】 大ホール Main Hall

【曲目】

フリスティナ・シュシャク (1996~) : 『POPA』 (2025/26) [世界初演]

Hristina Susak (1996-): *POPA* [World Premiere]

ルカ・フランチェスコニ (1956~) : ヴァイオリンと管弦楽のための『ドゥエンデ (鬼気迫るもの) —黒い音』 (2013) *

Luca Francesconi: *Duende. The Dark Notes* for Violin and Orchestra *

ルチアーノ・ベリオ (1925~2003) : 管弦楽のための『フォルマツィオーニ』 (1987)

Luciano Berio: *Formazioni* for Orchestra

ルカ・フランチェスコニ : 委嘱新曲 (2026) [サントリーホール委嘱新作/世界初演]

Luca Francesconi: *New Work* [World Premiere, commissioned by Suntory Hall]

【出演】 指揮 : 大野和士 Kazushi Ono, Conductor

ヴァイオリン : リーラ・ジョセフオウイツ* Leila Josefowicz, Violin *

東京都交響楽団 Tokyo Metropolitan Symphony Orchestra

【チケット料金】 S席 5,000円 A席 3,000円 U25席 1,000円 S ¥5,000 A ¥3,000 U25 ¥1,000

◎室内楽ポートレート

Chamber Music Portrait

【日時】 2026年8月23日(日) 15:00 開演 (14:30 開場)

Sunday, August 23, 2026 at 15:00 (Doors open 14:30)

【会場】 ブルーローズ (小ホール) Blue Rose (Small Hall)

【曲目】

ルカ・フランチェスコニ (1956~) Luca Francesconi :

アルト・サクソフォンのための『形跡』 (1985~87)

Luca Francesconi: *Tracce* for Alto Saxophone

チェロのための『揺れ—アクション』 (2020)

Secousse-Action for Cello

ヴィオラとエレクトロニクスのための『アニムス（魂／息吹）2』（2007）

Animus II for Viola and Electronics

ヴァイオリン、クラリネット、ピアノのための『衝動2』（1985～95）

Impulse II for Violin, Clarinet and Piano

『レスポンドゥット（…は答えた）』—空間の電子的処理を伴う、5つの楽器のために編曲されたジェズアルドの2つのマドリガーレー（1997）

Respondit—2 Madrigals by Gesualdo, Transcribed for 5 Instruments, with Electronic Spatial Treatment

フルートとアンサンブルのための『ダイダロス2』～ピエール・ブーレーズの追悼に（2025）

Daedalus II for Flute and Ensemble — Pierre Boulez in memoriam

- 【出演】 ヴァイオリン：リーラ・ジョセフォウィッツ Leila Josefowicz, Violin／迫田 圭 Kei Sakoda, Violin
ヴィオラ：大野若菜 Wakana Ono, Viola
チェロ：加藤文枝 Fumie Kato, Cello／山澤 慧 Kei Yamazawa, Cello
フルート：内山貴博 Takahiro Uchiyama, Flute
クラリネット：片山貴裕 Takahiro Katayama, Clarinet
オーボエ：荒木奏美 Kanami Araki, Oboe
サクソフォーン：大石将紀 Masanori Oishi, Saxophone
ピアノ：尾崎未空 Misora Ozaki, Piano
打楽器：安藤 巴 Tomo Ando, Percussion／悪原 至 Itaru Akuhara, Percussion
エレクトロニクス：有馬純寿 Sumihisa Arima, Electronics

【チケット料金】 指定席 4,500 円 U25 席 1,000 円 Reserved Seating ¥4,500 U25 ¥1,000

◎作曲ワークショップ×トークセッション ※日本語通訳付

Music Composition Workshop and Talk Session

【日時】 2026年8月25日（火）19:00 開始（18:30 開場）
Tuesday, August 25, 2026 at 19:00 (Doors open 18:30)

【会場】 ブルーローズ（小ホール） Blue Rose (Small Hall)

【内容】 第1部：ルカ・フランチェスコニ×細川俊夫 トークセッション
[Part 1] Luca Francesconi×Toshio Hosokawa Talk Session
第2部：若手作曲家からの公募作品クリニック／実演付き
[Part 2] Workshop by Call for Scores

【出演】 レクチャー：ルカ・フランチェスコニ／細川俊夫 Luca Francesconi / Toshio Hosokawa, Lecture

【チケット料金】 自由席 1,000 円 Non-Reserved Seating ¥1,000

【作品公募 Call for Scores】 公募した採用作品を実演、フランチェスコニ自ら作品についてアドバイスする特別なワークショップです。

応募詳細はこちら

https://www.suntory.co.jp/suntoryhall/schedule/detail/file/20260825_francesconi_workshop_application.pdf

募集要項

提出書類：①作品のスコア ②応募申請書（①、②共に PDF 推奨）

※採用された場合、パート譜のご用意をお願いします。

作品の長さ：10 分以内

作品の編成：

ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、フルート、クラリネットを使ったソロ、デュオ、トリオのいずれかの編成。（スコア、パート譜は作曲家自身の責任において作成されたものに限りません）

※既存／新作を問いません。※楽器の重複、持ち替えは不可とします。

楽譜に使用する言語：通常の音楽用語、記号のほかは、英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語のいずれかをご使用ください。

応募者の資格：日本在住、年齢 35 歳以下（2026 年 8 月 25 日時点）に限る。国籍不問。

8 月 25 日開催のワークショップへの参加が必須です。（交通費支給※関東圏外対象）

※ワークショップでは、採用作品を実演します。

応募方法：下記メールアドレスへ①と②を添付の上ご応募ください。

また、応募メールの件名は「作曲ワークショップ（氏名）」とご記入ください。

応募締め切り：2026 年 5 月 31 日（日）23 時 59 分まで

選考結果通知：採用された方へのみメールにて 7 月中旬までにご連絡いたします。

お問い合わせおよび応募先：

東京コンサーツ サマーフェスティバル事務局 summerfes@tokyo-concerts.co.jp

※応募の際、記載いただきました個人情報、目的以外では使用いたしません。

◆第 36 回芥川也寸志サントリー作曲賞選考演奏会

The 36th Competition of Yasushi Akutagawa Suntory Award for Music Composition

【日時】 2026 年 8 月 30 日（日）17:00 開演（16:20 開場）

Sunday, August 30, 2026 at 17:00 (Doors open 16:20)

【会場】 大ホール Main Hall

【曲目】

石川健人（1997～）：『嗅覚受容体』2 台のキーボードとオーケストラのための（2026）

[世界初演 第 34 回芥川也寸志サントリー作曲賞受賞記念サントリー芸術財団委嘱作品]

Kento Ishikawa: *Odorant Receptors* for 2 Keyboards and Orchestra

[World Premiere, commissioned by Suntory Foundation for the Arts]

キーボード：秋山友貴／天野由唯 Tomoki Akiyama / Yui Amano, Keyboard

第 36 回芥川也寸志サントリー作曲賞候補作品（五十音順／演奏順未定）

金田 望（1992～）：2 群のオーケストラのための『肌と布の遊び』（2024）

Nozomu Kaneda: *The Play for Skin and Fabric* for 2 Orchestras

中橋祐紀（1995～）：『And I sole ear（そして私はただ唯一の耳となる）』（2025）

Yuki Nakahashi: *And I sole ear*

ソプラノ：日野祐希 Yuki Hino, Soprano

エレクトロニクス：今井慎太郎 Shintaro Imai, Electronics

山本哲也（1989～）：『戸外の鳥たちへのトリビュート』合唱と室内オーケストラのための（2025）

Tetsuya Yamamoto: *Tribute to the birds out of doors* for Chorus and Chamber Orchestra

東京混声合唱団 The Philharmonic Chorus of Tokyo

【出演】指揮：阿部加奈子 Kanako Abe, Conductor
新日本フィルハーモニー交響楽団 New Japan Philharmonic

候補作品演奏の後、公開選考会（司会：長木誠司）
Open Screening by juries after the concert (Seiji Choki, MC)
選考委員（50音順）：岸野末利加／桑原ゆう／佐藤聰明
Malika Kishino / Yu Kuwabara / Somei Sato, Jury

【SFA 総選挙～あなたの清き、耳の一票を】※候補作品応援企画、非公式開催！
選考演奏会を会場で聴いて、気に入った曲に投票していただきます。
観客による総選挙の結果は、作曲賞決定後に発表します。

【チケット料金】

前売 一般 3,000 円 U25 席 1,500 円 Reserved Seating ¥3,000 U25 ¥1,500
当日窓口 一般 3,500 円 U25 席 2,000 円 Door Ticket ¥3,500 U25 ¥2,000
※前売券は、公演当日の 14 時まで WEB でご購入いただけます。

*****イベント*****

第 36 回芥川也寸志サントリー作曲賞選考演奏会 プレイメント（トークライブ）

- 日時：2026 年 8 月 30 日（日）15:30 開演（14:30 開場、16:30 終演予定）
- 会場：ブルーローズ（小ホール）
- 出演：真田将太郎／矢野耕我（「アートゥーン！」メンバー）、白石美雪（音楽学者）
- 料金：3,800 円（プレイメントと選考演奏会のセット券）
- チケット取扱い：サントリーホール、チケットぴあ、イープラス

※本券は、プレイメントと第 36 回芥川也寸志サントリー作曲賞選考演奏会（8 月 30 日（日）17:00 開演）のセット券です。プレイメント単独での販売はございません。

※プレイメントは座席指定券（座席選択可）、選考演奏会は「引換券」が発券されます。プレイメントの開場時に「引換券」をご提示の上、選考演奏会の座席指定券（座席選択不可）とお引き換えください。

※選考演奏会の座席指定券につきましては、事前の座席番号案内および事前引換は行っておりません。あらかじめご了承ください。

※e チケットのお取扱いはございません。

協力：株式会社 baton

◆サントリーホール開館 40 周年記念

「時を編む響」

Suntory Hall 40th Anniversary Program

Weaving Time, Weaving Resonance

【日時】2026 年 8 月 27 日（木）18:30 開演（17:50 開場）
Thursday, August 27, 2026 at 18:30 (Doors open 17:50)

【会場】大ホール Main Hall

【曲目】

カミーユ・ペパン（1990～）：弦楽四重奏のための『シルヴァカーヌの水の葉』（2019）（日本初演）
Camille Pépin: *Feuilles d'eau de Silvacane* for String Quartet [Japanese Premiere]
池田亮司（1966～）：9本の弦のための『op. 1』（2000～01）（日本初演）
Ryoji Ikeda: *op. 1* for 9 strings [Japanese Premiere]

三善 晃 (1933～2013) : ソプラノと管弦楽のための『決闘』 (1964)

Akira Miyoshi: *Duel* for Soprano and Orchestra

武満 徹 (1930～96) : ピアノと管弦楽のための『リヴァラン』 (1984)

Toru Takemitsu : *riverrun* for Piano and Orchestra

ショーン・シェパード (1979～) : 管弦楽のための『表現抽象主義』 (2017) (日本初演)

Sean Shepherd: *Express Abstractionism* for Orchestra [Japanese Premiere]

トーマス・アデス (1971～) : ヴァイオリンと管弦楽のための『アリア (エア)』～シベリウスへの
オマージュ (2021～22)

Thomas Adès: *Air—Homage to Sibelius* for Violin and Orchestra

【出演】 ソプラノ : 砂田愛梨 Airi Sunada, Soprano

ヴァイオリン : 成田達輝 / 石上真由子 Tatsuki Narita / Mayuko Ishigami, Violin

ピアノ : 小林愛実 Aimi Kobayashi, Piano

ヴァイオリン : 小林壱成 Issey Kobayashi, Violin

チェロ : 柴田花音 Canon Shibata, Cello

ほか etc.

指揮 : 沼尻竜典 Ryusuke Numajiri, Conductor

東京交響楽団 Tokyo Symphony Orchestra

【チケット料金】 S 席 6,000 円 A 席 4,000 円 U25 席 1,000 円 S ¥6,000 A ¥4,000 U25 ¥1,000

◆アンサンブル・ゴーフオーイット

Ensemble “Go for it”

【日時】 2026年8月22日 (土) 15:00 開演 (14:30 開場)

Saturday, August 22, 2026 at 15:00 (Doors open 14:30)

【会場】 ブルーローズ (小ホール) Blue Rose (Small Hall)

【曲目】

八村義夫 (1938～1985) : 『彼岸花の幻想』 作品 6 (1969) *

Yoshio Hachimura: *Meditation Higan-Bana*, Op. 6 *

アルノルト・シェーンベルク (1874～1951) : 15 の独奏楽器のための室内交響曲第 1 番 作品 9 (1906)

Arnold Schoenberg: *Chamber Symphony Op. 9 for 15 Solo Instruments*

ジェルジ・リゲティ (1923～2006) : チェロ協奏曲 (1966) **

György Ligeti: *Cello Concerto* **

アンドレ・ジョリヴェ (1905～1974) : トランペット協奏曲第 2 番 (1954) ***

André Jolivet: *Trumpet Concerto No. 2* ***

藤倉 大 (1977～) : 室内アンサンブルとエレクトロニクスのための『リチュアル (儀式)』～ピエール・
ブーレーズの追憶に [室内アンサンブル版 日本初演] (2024) ****

Dai Fujikura: *Ritual—In Memoriam Pierre Boulez* for Chamber Ensemble and Electronics

[Japanese Premiere of the Ensemble version] ****

【出演】 指揮 : 沼尻竜典 Ryusuke Numajiri, Conductor

アンサンブル・ゴーフオーイット (コンサートマスター : 水谷 晃)

Ensemble “Go for it” (Concertmaster: Akira Mizutani)

ピアノ : 石井楓子* Fuko Ishii, Piano *

チェロ：上村文乃** Ayano Kamimura, Cello **

トランペット：児玉隼人*** Hayato Kodama, Trumpet ***

エレクトロニクス：有馬純寿**** Sumihisa Arima, Electronics ****

【チケット料金】 指定席 5,000 円 U25 席 1,000 円 Reserved Seating ¥5,000 U25 ¥1,000

【チケット発売】

サントリーホール・メンバーズ・クラブ先行発売：2026年5月12日（火）10時～14日（木）

※先行期間中は窓口での販売はございません。

一般発売：5月15日（金）10時～

【チケット取り扱い】

サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017（10:00～18:00、休館日を除く）

サントリーホール・メンバーズ・クラブ WEB suntoryhall.pia.jp

（登録料・会費無料、座席選択可能）

サントリーホールチケットセンター窓口：10:00～18:00、休館日を除く

※18:00以降開演の公演がある場合は開演時刻まで営業いたします。

チケットぴあ t.pia.jp

イープラス eplus.jp

※U25席はサントリーホールチケットセンター（WEB・電話・窓口）のみ取り扱い。

25歳以下、来場時に身分証提示要。お一人様1枚限り。

【主催】 サントリーホール

【助成】

文化庁文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業） | 独立行政法人日本芸術文化振興会

【制作協力】 東京コンサーツ

【協力】 （一社）日本作曲家協議会 / （一社）日本音楽著作権協会 / （特非）日本現代音楽協会
（芥川也寸志サントリー作曲賞選考演奏会）

※内容が変更になる場合がございますので、あらかじめご了承ください。最新情報は、ホームページでお知らせします。

※就学前のお子様は同伴・入場いただけません。

【プロフィール】

■作曲：ルカ・フランチェスコニ Luca Francesconi, Composer

ルカ・フランチェスコニは、一音一音に強い生命感を宿し、直截的な推進力と高度に組織化された緻密さを併せ持つ作品で、1990年代以降の現代音楽を代表する作曲家の一人である。声と言語への根源的関心、ジャズ由来のリズム感、エレクトロニクスを統合した豊かな音響が特徴で、IRCAMとの協働作品やオペラ《四重奏》は国際的成功を収めた。協奏曲におけるヴィルトゥオジックで爆発的なエネルギーも高く評価され、創作・教育・運営の各面から現代音楽界を牽引する存在である。

■作曲：フリスティナ・シュシヤク Hristina Susak, Composer

ノヴィ・サド（セルビア）出身。8歳で作曲を始め、ウィーン国立音楽大学でイーリス・テル・シプホルストにメディア作曲、ゲジーネ・シュレーダーに音楽理論を師事。ドレスデン音楽大学大学院修士課程でマーク・アンドレに学んだ。2015年頃から室内楽、管弦楽曲、映像やインスタレーションを伴う作品を発表。22年、

謡とヴィオラのための『マントラ』が東京で初演され、23年には講師を務めた武生国際作曲ワークショップで尺八とリコーダーのための『富士の風』が初演されるなど、日本との縁も深い。その作品は実存的・哲学的なテーマを扱いつつも、上行・下行といったシンプルな音型をユニークに反復・変容させ、神秘性や幽玄さを喚起する。アンサンブルとライブ・エレクトロニクスのための『アニマ（魂）』（18/19）や『私は存在する—小犬に捧ぐ』（21/22）では、人のさまざまな声の様態を音に写しとり、声と器楽音の連続性をユーモラスに示す。24年にはパリ・ファッションウィークから委嘱を受けて作曲したランウェイ用音楽が、アンサンブル・アンテルコンタンポランのメンバーによって演奏され、翌年には IRCAM が協賛するエラン賞のファイナリストにノミネートされた。ベルリン芸術大学講師。

■作曲：ルチアーノ・ベリオ Luciano Berio, Composer

オネリア（イタリア）出身。ミラノ音楽院でパリベーニ、ゲディーニに師事（1946～51）。アメリカで電子音楽と出会い、マデルナとともにイタリア国営放送（RAI）に電子音楽スタジオを設立（55）。1950年以降、アメリカ人歌手キャシー・バーベリアンと共働し、ポピュラー音楽を参照した『フォーク・ソングズ』（64）、声の可能性を開拓した『セクエンツァ 3』（65）などを発表。高度な技巧と音楽的知性を要求する独奏（唱）のための14の『セクエンツァ』（58～2003）、それにもとづく『シュマン』のシリーズ（1965～92）、音と言葉の鮮烈なコラージュで名高い『シンフォニア』（68～69）、『オペラ』（70/77）をはじめとするミュージック・シアター、過去作品を読み換えた『レンダリング』（90）、空間性を探究した『フォルマツィオーニ』（87）などで、伝統との鋭い対峙に基礎をおく刺激的な音楽観を提示し続け、20世紀後半の現代音楽界を牽引した。ジュリアード音楽院で教え（65～71）、IRCAMの電子音響部門を率いた（74～80）あとフィレンツェに電子音響音楽研究センター、テンポ・レアーレを設立（87）。エルンスト・フォン・シーメンス音楽賞（89）、高松宮殿下記念世界文化賞（96）。

■指揮：大野和士 Kazushi Ono, Conductor

東京都交響楽団芸術顧問、ブリュッセル・フィルハーモニック音楽監督、新国立劇場オペラ芸術監督。これまでに、ザグレブ・フィル音楽監督、都響指揮者、東京フィル常任指揮者（現・桂冠指揮者）、カールスルーエ・バーデン州立劇場音楽総監督、ベルギー王立モネ劇場音楽監督、アルトゥーロ・トスカニーニ・フィル首席客演指揮者、リヨン国立歌劇場首席指揮者、バルセロナ響音楽監督を歴任。また、世界各地のオペラハウスおよびオーケストラでの客演も枚挙にいとまがない。フランス批評家大賞、サントリー音楽賞、朝日賞など受賞多数。文化功労者。

■ヴァイオリン：リーラ・ジョセフォウィツ Leila Josefowicz, Violin

ミシサガ（カナダ）出身。3歳でヴァイオリンを始め、カーティス音楽院でハイメ・ラレードとヤッシャ・プロツキーに師事。1994年、カーネギーホールでチャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲を演奏し、脚光を浴びる。長年現代音楽をレパートリーの核に据えており、フランチェスコニの『ドウエンデ（鬼気迫るもの）—黒い音』（2013）のほか、エサ＝ペッカ・サロネンの『ヴァイオリン協奏曲』（09）、ジョン・アダムズの『シェヘラザード.2』（14）といった規模の大きなヴァイオリン協奏曲を献呈されており、切れ味の鋭い、求心力の高い演奏で作品の真価を引き出してきた。2018年エイヴリー・フィッシャー賞受賞。現在マネス音楽院で教鞭を執る。

■指揮：阿部加奈子 Kanako Abe, Conductor

オランダ在住。東京芸術大学音楽学部作曲科を経て、パリ国立高等音楽院にて作曲に関連する6つの課程とともに日本人として初めて同音楽院指揮科で学ぶ。2005年に現代音楽アンサンブル「ミュルチラテラル」を創設、14年まで音楽監督を務め、その間にチューリヒ歌劇場やモンペリエ国立歌劇場で副指揮者を務める。22年にエクサンプロヴァンス音楽祭、23年にロイヤル・バレエ&オペラ、24年にウィーン芸術週間、25年にフィンランド国立歌劇場、オランダ国立歌劇場にブシュラ・エル＝トゥルク作曲の現代オペラでデビュー。これまでに IRCAM との提携、ラジオ・フランスへの録音をはじめ、ストラスブル音楽祭、ヴェネツィア国際現代音楽祭などで200曲以上の世界初演の指揮を手がける。作曲家の視点に立った斬新な解釈や情熱溢れる演奏に定評があり、多くのファンを魅了している。現在、フランス・ドーム交響楽団の芸術監督兼音楽監督を務める。

<https://www.kanakoabe.com>

■作曲：石川健人 Kento Ishikawa, Composer

1997年東京生まれ。音楽外のさまざまな興味と音楽との結び目を探り、その過程で得た気づきを創作と日々の営みの糧としている。第91回日本音楽コンクール作曲部門第1位および明治安田賞・三善賞、第34回芥川也寸志サントリー作曲賞受賞。クマ財団クリエイター第7期奨学生、ロームミュージックファンデーション2025、26年度奨学生。東京藝術大学および同大学院修士課程修了。渡独し現在はケルン音楽舞踊大学に在籍。安良岡章夫、望月京、ミロスラフ・スルンカに師事。

■作曲：金田 望 Nozomu Kaneda, Composer

1992年生まれ。新潟県新潟市出身。国立音楽大学大学院博士後期課程修了。第1回松村賞受賞。2025年度武満徹作曲賞第1位（審査員：ゲオルク・フリードリヒ・ハース）。洗足学園音楽大学、桐朋学園大学音楽学部、桐朋学園大学附属子供のための音楽教室非常勤講師。

■作曲：中橋祐紀 Yuki Nakahashi, Composer

1995年生まれ。富山県出身。東京藝術大学音楽学部作曲科を経て同大学大学院修士課程修了。文化庁新進芸術家海外研修制度、ロームミュージックファンデーションからの給費を得て、パリ国立高等音楽院作曲科第一・第二課程修了。第76回ジュネーヴ国際音楽コンクール第2位など受賞多数。

■作曲：山本哲也 Tetsuya Yamamoto, Composer

1989年生まれ。長野県出身。国立音楽大学大学院作曲専攻、リヨン国立高等音楽院作曲科、モンス王立音楽院指揮科で修士号を取得。これまでに国内外の30以上もの作曲コンクール・作品公募にて作品が評価されている。現代音楽演奏団体「アンサンブル・リカレンス」音楽監督／指揮者。国立音楽大学非常勤講師。

■指揮：沼尻竜典 Ryusuke Numajiri, Conductor

神奈川フィル音楽監督、トウキョウ・ミタカ・フィル音楽監督。1990年ブザンソン国際指揮者コンクールで優勝。国内外で数々のポストを歴任。ドイツではリュベック歌劇場音楽総監督を務め、オペラ公演、リュベック・フィルとのコンサートの双方において多くの名演を残した。ケルン、ミュンヘン、ベルリン、バーゼル、シドニーなどの歌劇場にも客演。16年間にわたって芸術監督を務めたびわ湖ホールでは、ワーグナーの主要オペラ10作品をすべて指揮した。2014年にはオペラ『竹取物語』を作曲・初演、国内外で再演されている。17年紫綬褒章受章。

■ソプラノ：砂田愛梨 Airi Sunada, Soprano

東京音楽大学卒業、同大学院修了。第4回ジュディッタ・パスタ国際オペラ歌唱コンクール第2位、第94回日本音楽コンクール第1位など受賞歴多数。イタリア・サッサリ市立歌劇場でデビュー後、イタリアの様々なプロダクションに出演を続ける。また日本では、日生劇場『連隊の娘』マリー、新国立劇場『ジャンニ・スキッキ』ラウレッタ、高崎芸術劇場『カルメン』フラスキータで出演したほか、コンサートソリストとして国内各地のオーケストラとも共演。今後は新国立劇場『ウェルテル』ソフィー、日生劇場『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナなどで出演予定。ミラノ在住。

■ヴァイオリン：成田達輝 Tatsuki Narita, Violin

2010年ロン＝ティボー国際コンクール第2位、12年エリザベート王妃国際音楽コンクール第2位。国内外の指揮者・オーケストラと多数共演し高い評価を得るとともに、リサイタルやジャンルにこだわらない様々なアーティストとの室内楽においても圧倒的なテクニックと多彩な表現力を披露している。現代作曲家とのコラボレーションも多く、22年9月には坂本龍一のプライベート録音に参加し『ソナタ』などを演奏。使用楽器は、A. ストラディヴァリ「Tartini」1711年製（宗次コレクションより貸与）。

■ヴァイオリン：石上真由子 Mayuko Ishigami, Violin

日本音楽コンクールなど、国内外で受賞多数。題名のない音楽会、クラシック音楽館などメディア出演多数。東響、都響、読響、日本フィル、ブラショフ国立響など内外で多数のオーケストラと共演。長岡京室内アンサンブル、アンサンブル九条山メンバー。ポラリス国際音楽祭アドバイザー。Ensemble Amoibe 主宰。Music Dialogue、CHANEL 室内楽、おんかつ支援アーティスト。京都市芸術新人賞、音

楽クリティック・クラブ賞、大阪文化祭賞、青山音楽賞、藤堂音楽賞、京都府文化賞、京都府あけぼの賞受賞。
日本コロムビア、ALTUS、キングレコード、ワオンレコードより CD 好評発売中。

■ピアノ：小林愛実 Aimi Kobayashi, Piano

2021年10月、第18回シヨパン国際ピアノコンクール第4位入賞。7歳でオーケストラと共演、9歳で国際デビューを果たす。ブリュッヘン指揮18世紀オーケストラ、ソヒエフ指揮ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団など多数のオーケストラと共演。10年に14歳でEMI ClassicsよりCDデビュー。24年11月にCD『シュベルト：4つの即興曲 作品142、ピアノ・ソナタ第19番 ハ短調、ロンド イ長調（連弾）他』をワーナークラシックスよりリリース。22年3月、第31回出光音楽賞受賞。

■コンサートマスター：水谷 晃 Akira Mizutani, Concertmaster

大分市生まれ。桐朋学園大学を首席で卒業。ヴァイオリンを小林健次、室内楽を原田幸一郎、毛利伯郎、東京クワルテットに師事。在学中にウェールズ弦楽四重奏団を結成し、第57回ミュンヘン国際音楽コンクール第3位入賞。群馬交響楽団、東京交響楽団のコンサートマスターを経て、現在、東京都交響楽団コンサートマスターとオーケストラ・アンサンブル金沢客員コンサートマスターを兼任。ゆふいん音楽祭音楽監督を務めるほか、室内楽奏者として木曾音楽祭を含む各地の音楽祭にも出演。母校・桐朋学園大学講師として後進の育成にも取り組んでいる。

■ピアノ：石井楓子 Fuko Ishii, Piano

2022年第17回グリーク国際ピアノコンクール（ベルゲン）優勝。また2019年第2回ブラームス国際ピアノコンクール（デトモルト）第1位。第82回日本音楽コンクールピアノ部門第1位。桐朋学園大学卒業。その後ケルン音楽大学、バーゼル音楽院で学び、クラウディオ・マルティネス＝メナー氏に師事。修士課程・演奏家課程を最高点で卒業。これまでにバーゼル交響楽団、ベルゲン交響楽団、またNHK交響楽団をはじめとする国内主要オーケストラと共演、ウィーン楽友協会ブラームスホール、グリークホール（ノルウェー）などで演奏を行う。ベートーヴェン、ブラームス、グリークを演奏活動の軸としている。現在、桐朋学園大学非常勤講師。

■チェロ：上村文乃 Ayano Kamimura, Cello

桐朋学園大学ソリストディプロマコース卒業後、ハンブルグ音楽演劇大学とバーゼル音楽院に留学。日本音楽コンクール第2位、トレヴィーゾ市国際音楽コンクール第1位、インディアナポリス国際バロックコンクール優勝など入賞歴多数。リサイタルのほかオーケストラ共演や室内楽の演奏も高く評価されている。国内外の多くの音楽祭への参加やピリオド楽器を用いた歴史的演奏法にも取り組み、バッハ・コレギウム・ジャパンのメンバーとしても活躍中。2022年ホテルオークラ音楽賞、24年第22回齋藤秀雄メモリアル基金賞を受賞。

■トランペット：児玉隼人 Hayato Kodama, Trumpet

2009年北海道釧路市生まれ。24年日本管打楽器コンクールトランペット部門において、全部門での史上最年少で第1位、あわせて特別大賞・内閣総理大臣賞を受賞。25年ウィーン国際音楽コンクール金賞、コダーイ国際音楽コンクール第5位を受賞するなど、数々のコンクールで入賞している。これまでに、NHK交響楽団、読売日本交響楽団など、国内の主要オーケストラと共演。「クラシック音楽館」「題名のない音楽会」「EIGHT-JAM」など、多くのテレビ番組に出演している。24～25年度ヤマハ音楽支援制度奨学生。第7回服部真二音楽賞 Rising Star を受賞。25年2月に1stアルバム『Reverberate』をリリース。現在、カールスルーエ音楽大学のプレカレッジにて、ラインホルト・フリードリヒに師事。hayatokodama.com

■エレクトロニクス：有馬純寿 Sumihisa Arima, Electronics

エレクトロニクスやコンピュータを用いた音響表現を中心に、現代音楽、即興演奏などジャンルを横断する活動を展開、数多くの演奏会で電子音響の演奏や音響技術を手がけ高い評価を得ている。2012年に国内外の現代音楽シーンで活躍する演奏家たちと現代音楽アンサンブル「東京現音計画」を結成、これまでに20回を超える演奏会を行ってきた。第63回芸術選奨文部科学大臣新人賞芸術振興部門受賞のほか、サントリー芸術財団佐治敬三賞をこれまで複数回受賞。国内外の実験的音楽家や即興演奏家とのセッションや、美術家とのコラボレーションも多い。現在、東京音楽大学准教授。